

Principal Correspondence

リリーベールは硬派の教育？

あけましておめでとうございます。リリー文化学園は創業69年を迎えます。本年も宜しくお願いいたします。

リリーベール小学校を外から見た評価に「リリーさんは素敵な制服，素敵な校舎，ブランドを目指していますよね？」というものがあります。外から見ると羨望もあり，その逆もあり，フワフワした軟弱な？学校に見えるのかもしれませんが，リリーベールの教育は硬派です。



現在の教育に欠けていると感じるものは数々あります。

皆，平等の教育（平等の徹底は，時に結果への悪平等が見られます）

今から適度な競争で勝ち負けを経験しておかないと子どもたちは大きくなって猛烈な競争社会に放り出され挫折から立ち直れない事になります。現在日本で70万人の青少年が引きこもっています。

躰教育（人権に関わるという理由で，持ち物検査を行わない学校があります）

当校では持ち物検査，挨拶，ルールの厳守，躰は徹底して行います。それによって，規範意識が身につく，生涯を通じて社会に愛される人になっていきます。

真のリーダーシップ教育（明確に学級長制度を置く小学校を茨城では耳にしません。）

今は「リーダーになるだけ損，面倒くさい。」という気風が日本に満ち，志を持って働く人が減っています。当校では児童会長，副会長，級長，副級長，ハウスリーダー，バスリーダー，委員会委員長，クラブキャプテンを任命し，リーダーにはバッジ・たすき・リボンをつけて格好良くし，低学年があこがれる存在になるようにしています。リーダーとは，ボスと違い「指導者」ですから，時期が来れば交代します。しかし交代してフォローアーになったら，1メンバーとしてチームに協力できなければなりません。両方できてリーダーシップ教育と考えています。

ボトムアップよりプルアップ教育

当校では，もちろん学力を大切にし，優秀な児童の学力向上に力を尽くしています。しかし，学力のみに特化し，多様な才能の芽を摘んでしまうような学習環境は本末転倒だと考えます。勉強に限らず，アスリート系，アーティスト系の能力もできるだけ，それぞれの良いところをプルアップします。目先の受験技術も大切ですが，一生を支えるような真の学力はもっと大切です。

学び続ける力，創造性，さらには人としての思いやり，人望，人間性（現在の脳科学では人望や人間性は知能のひとつと考えられています。）を育てます。

新しい一年，夢はあきらめなければきっと叶う。2018年，勇気と希望を持ってさらによい年にしていましましょう。

Principal Correspondence

大いに笑い 人生を楽しみましょう



2018年、リリー文化学園は創業69年になります。

今年はできるだけ笑顔を増やし、笑いを多くすることを学園のモットーとしていきたいと思っています。難しい、しかめっ面をして生きるのも人生、笑顔で過ごせるのも同じ人生です。

英国のジェントルマンの素養で欠かせないものにユーモアがあります。

英国人は必ず会話にユーモアを交えてコミュニケーションを取るのですが（基本英国の流れを汲む米国も同じです）、その極端な例は、映画007のジェームズ・ボンドが絶体絶命の状況のときに必ず一言冗談を言う場面です。それが英国紳士のやせ我慢であり、ゆとりであり、条件なのです。

英国ウォーリック大学のオズワルド教授の実験

700人の学生に10分間のコメディを見せて大笑いしたグループと、そうでないグループに、二桁の足し算を解いてもらう実験をしました。その結果、コメディを見たグループは平均12パーセント高得点だったといえます（競争社会の歩き方・中公新書・大竹文雄）。

笑いによる幸福度が高まると、生産性が高まる上に忍耐強くもなるという結果でした。

リリー文化学園の幼小部門の先生には「一日一回はクラスで腹を抱えて笑う」という課題が出されています。

人生何でも前向きに考え、例え不遇に出会っても「それは自分の成長の為に与えてくれた試練のチャンス」ととらえて生きたいものです。

大いに笑い、人の為に何かを尽くし与える人が、結果として一番多くを得て（愛情とか、信頼とか、人望とか、必ずしも形には表れないかもしれませんが）幸せになれるのです。

子どもたちに幸せな人生を歩んで欲しいと願うなら、認め、ともに笑い、ともに何かを与える経験をする一年にしていきましょう。

